

上勝・お年寄りの「葉っぱビジネス」

元気印写真で全国発信

地元で自生する季節の草木類を料理の「つまもの」として商品化する上勝町の「彩産業」の魅力を伝える写真集を徳島市の老舗の写真館が白費出版した。題は「いろどり おばあちゃんたちの葉っぱビジネス」。

元祖に「晴彦」に打ち込むおじいちゃんやおばあちゃんたちの姿を多くの写真家と交えて紹介している。発売から10日足らずだが、文化人を中心に全国的に反響を呼び、徳島市の書店では「バスターラ」入りも果たした。

(上田学)

立木写真館 白費出版

出版したのは写真家の立木義典氏の実家で、NHK朝の連続ドラマ「なつちゃんの写真館」のモデルとして知られる立木写真館(徳島市仲之町)。1983年(明治16年)の創業から今年で123周年を迎え、その記念事業として1年半をかけて取り組んだ。

きっかけは、04年秋、同写真館業務の立木とみさん(46)と、彩産業の中心となっている町の第三セクター「いろどり」副社長の横石知二さんとの出会った。徳島青年会議所の紹介で、いろどりで開かれた「1年木賊路会議」そのぞいた立木さんはその活気に驚いた。70歳を超えたおばあちゃんやおじいちゃんたち約40人が、出荷についての数字やデータをメモしながら、説明を真剣に聞いている。事業をもっと深く知り、この魅力を全国に発信

「明るいエネルギー感じて」

したいと思っただい。

立木さんが監修し、写真集を製作することが決まった。スタッフが10人がかりで05年春から1年間かけて同町に通い、撮りためた写真は1万枚以上になった。農家だけではなく、四季折々の風景や事業の詳しい説明を織り交ぜ、同町を訪れた読者や美術家福嶋敏さん、作家立松和平さん、女優濱美枝さんらのコラムも盛り込んだ。完成した写真集全2008冊は当初予定の2倍以上だという。

立木さんは「本を手にした人から、においや臭いを感じる」と言われる。古里を誇りに思いながら暮らし、年を重ねることを楽しんで、そんな明るいエネルギーを感取ってもらいたい」と話している。

1万部制作。A4判、全カラー。2100円。県内の主な書店やインターネット、同写真館(088・622・6426)で販売する。出版記念の写真展が25日、JR徳島駅前のもろろ徳島店8階で開かれる。



立木写真館が白費出版した「いろどり おばあちゃんたちの葉っぱビジネス」